

お医者さんになって、ぬいぐるみをなおしてあげよう！

「ぬいぐるみ病院」TIFMSA(ティフムサ)徳島大学 徳島国際医学生連盟

おぎやと21や藍住町、海南町、木のおもちゃ美術館などで、子どもたちに診察ごっこを通して病院や医療に親んでもらう「ぬいぐるみ病院」を実施する徳島大学の学生サークルTIFMSA(“ティフムサ”徳島国際医学生連盟※1)の取り組みを紹介します



ぬいぐるみ病院に初めて参加するメンバーのための勉強会

TIFMSAの「ぬいぐるみ病院」は、イベントに来る子どもたちにお医者さん役になってもらい、実際の診察で使われる聴診器や体温計などを使って、ぬいぐるみの診察ごっこをしてもらう取り組みです。子どもたちの病院や医療への恐怖心、抵抗心を、この体験を通して少しでも減らすこと、そして健やかに育つための病気の予防方法や知識を親子で楽しく学んでもらうことを目的に活動しています。

子どもたちと向き合うために

TIFMSAには徳島大学医学部の医学科・保健学科・医科栄養学科の学生が参加しています。部長の籠谷有実子さん(保健学科看護学専攻3年生)は「今年度は、1年生25人を含め51人のメンバーで活動しています。各学科からの参加なので、医療にかかわる専門職として、診察ごっこでの

問診の方法が人によってばらつきがないように、初歩的な問診知識を共有するため、ぬいぐるみ病院に初めて参加するメンバーと新入生のための勉強会を開きました」。

この勉強会では、現場での子どもたちとの接し方、保護者とのコミュニケーションの大切さなど、具体的な事例を挙げ、現場でスムーズに運営できるようにシミュレーションを行いました。先輩メンバーが、子どもたちの年齢に合わせた対応例を説明。乳幼児の場合は白衣の着用体験と写真撮影、幼稚園児くらいなら聴診器など興味のある道具を楽しんで使ってもらおうといった、子どもに合った対応を心がけるよう呼びかけました。その後、実際にぬいぐるみを使って問診の進め方を練習しました。

このように毎回「ぬいぐるみ病院」開催前にはメンバーが集まり、打ち合わせや反省会を行っています。

開催の時期や場所、イベント内容に合わせ、意見を出し合い、感染症や熱中症、防災など、子どもたちの健康維持に必要な保健情報のチラシも制作しています。



オリジナルカルテや、ぬいぐるみを使った実践練習

※1) TIFMSA(徳島国際医学生連盟)とは徳島大学でIFMSA-Japan(国際医学生連盟日本)の活動を行っている団体。母体のIFMSAはWHO(世界保健機関)に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生NGO。

※2) T-CoM(徳島大学地域医療研究会)とは、地域医療に貢献できる医療従事者になるため、地域に出向き、総合診療について学ぶ活動を行っている。

昨年度の「ぬいぐるみ病院」の開催回数は計9回。藍住町の子どもフェスティバル、スポーツイベント、防災キャンプのほか、海南病院まつり、板野町の木のおもちゃ美術館、徳島大学蔵本祭、おぎゃと21など県内各地で活動しました。

おぎゃと21や地域のイベントに参加した大塚歩実さん(保健学科看護学専攻2年生)は「おぎゃと21では、たくさんの親子のリアルな様子に触れられたことがいい経験になった。またサークルを通して地域に出向き、現地の取り組みや、そこで暮らす子どもや保護者の様子を知ることが、地域の特徴に

あった医療につながると思った」。

児島愛梨さん(保健学科看護学専攻2年生)は「病院という子どもたちからすれば、非日常の場所について楽しく学んで、興味を持ってもらうことで、その子の病院への苦手意識を変えることができるかもしれないと感じた」。

池田慧悟さん(医学科2年生)は「普段気づかなかった子どもの様子や特性などを知ることができた。地域全体で子どもの成長を支援する中で、医療従事者に何ができるかを、学生のうちから考えておくことが将来、医師として地域医療に関わるときに役に立

つと信じている」と、これらの貴重な経験から、それぞれに気づきがあったことを話してくれました。

地域社会は学びの場

このように子育て支援イベントや地域に出て、地域社会との関わりを積極的に行うようになったのには理由がありました。それはTIFMSAの活動を支える海南病院総合診療医の國永直樹さんの存在です。「学生に総合診療を学ぶ環境をつくりたいと考えたのがきっかけでした。まず、学生が地域に出向き、医療職の卵として住民にアドバイスできるような機会と

場所をつくりました。その一つが海南病院での徳島大学地域医療研究会T-CoM「ティーコム」※2の学生とコラボしたイベントでした。その後、TIFMSAもT-CoMと一緒に活動するようになりました。今では学生が責任を持って直接地域と交渉をして、活動場所を広げて自由に羽ばたいてくれています」と、國永先生はうれしそうに話します。

各地域の子育て支援、医療や保健活動では、たくさんの関係機関、支援団体、ボランティアなどが協力し合い、自分たちが暮らす地域を少しでもよくしようと注力しています。その現場がTIFMSAやT-CoMの

学びの場となって、未来の医療従事者をはぐくんでいます。「将来は徳島大学の学生だけではなく徳島県の大学生や介護などの学生たちと一緒に活動したい」と、國永先生はビジョンを話してくれました。

TIFMSAは、今年度もすでに5月の藍住町のイベントから活動をスタートさせています。9月23日にアスティとくしまで開かれるおぎゃと21への参加も決定しています。ぜひ会場に来て親子で「ぬいぐるみ病院」を体験してみてください。

ぬいぐるみ病院の開催予定および、開催依頼は右記の2次元コードよりTIFMSAインスタグラムをご覧ください



昨年のおぎゃと21「ぬいぐるみ病院」



おぎゃと21の「ぬいぐるみ病院」はTIFMSAとT-CoMが協力して実施。写真前列右が國永先生



藍住町わくわくスポーツ広場での「ぬいぐるみ病院」



TIFMSA執行部(写真左から)企画統括:安藝藍さん、副部長:大塚歩実さん、部長:籠谷有実子さん、副部長:児島愛梨さん、会計:池田慧悟さん

みんな!たいへん!!
ぬいぐるみがびょうきになっちゃった!!
おいしゃさんになって
ぬいぐるみたちをなおしてあげて!